

小麦「ふくさやか」の播種適期と適正播種量				
<p>【要約】 「ふくさやか」の播種適期は10月下旬から11月中旬で、<u>11月上旬播種</u>が最も高く安定した収量が確保でき、品質も優れる。<u>最適な播種量は、散播で10kg/10a程度</u>である。</p>				
農業試験場・栽培部・作物担当			「 実施期間 」 平成12年度～16年度	
【部会】 農産	【分野】 高品質化技術	【予算区分】 委託	【成果分類】	指導

【背景・ねらい】

中国農業試験場（現、近畿中国四国農業研究センター）で育成された小麦「ふくさやか」は、「農林61号」に比べ生育特性および加工適性に優れることから、平成15年4月に県奨励品種に採用した。今後広く普及を図るためには、本品種の収量・品質の高位安定栽培技術を確立する必要があり、播種時期および播種量について検討した。

【成果の内容・特徴】

「ふくさやか」を10月20日頃～12月5日頃の範囲で播種した場合、出穂期は4月10日～4月27日、成熟期は6月2日～6月11日となる。（図1）。

「ふくさやか」の穂数は10月20日播きで最も多く、播種期が遅くなるに従い減少し、11月20日播き、12月5日播きでは収量低下が大きい。収量は11月5日播きで最も高く安定しており、千粒重、容積重も高く、外観品質も優れる（表1）。

播種量が少ないと、出穂期はやや遅くなる傾向が見られるが、成熟期の差は見られない（表2）。

全面全層播きの場合、播種量を増やすと穂数は増加するが、収量は10kg/10a播種で頭打ち傾向となる。播種量6kg/10aの場合には、穂数が少なく収量低下が大きいことから施肥量を増やす必要がある（表2）。

【成果の活用面・留意点】

本暗渠、弾丸暗渠、明渠等を組み合わせた排水対策の徹底が重要である。

穂数が減少すると収量の低下につながる場合があるので、追肥を施用して穂数の確保に努める。安定した収量・品質を確保するための施肥体系については検討中である。

[具体的データ]

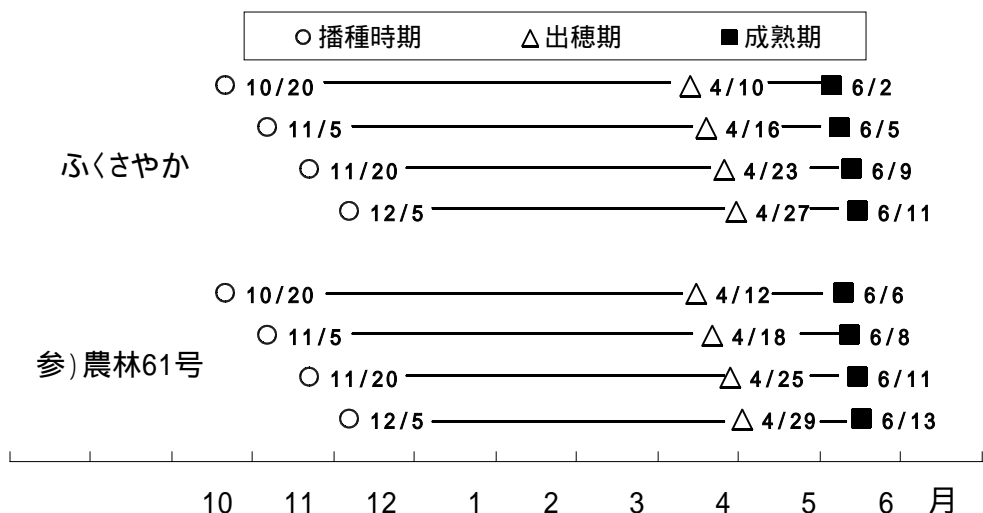


図1 播種期試験における出穂期および成熟期

表1 播種時期が収量および品質に及ぼす影響

品種名	播種時期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	全重 (kg/a)	精子実重 (kg/a)		収量比	容積重 (g/L)	千粒重 (g)	外観品質 (1-6)	蛋白質 含量 (%)	灰分 (%)
						平均	標準偏差						
ふくさやか	10月20日	76	7.5	568	100	45.0	9.3	96	811	31.3	3.6	8.6	1.60
	11月5日	80	7.5	504	103	46.7	4.1	100	816	34.0	3.3	8.7	1.60
	11月20日	76	7.6	480	92	42.0	5.0	89	812	33.0	3.5	8.8	1.61
	12月5日	73	7.3	462	80	35.7	6.4	77	808	30.8	4.1	9.0	1.57
参)農林61号	10月20日	86	7.1	550	109	44.3	6.5	98	810	36.6	4.1	8.9	1.69
	11月5日	89	7.4	464	101	44.9	5.2	100	821	39.1	3.9	9.0	1.68
	11月20日	84	8.0	434	88	39.4	5.2	88	815	39.0	4.1	9.3	1.66
	12月5日	80	7.6	436	84	37.4	4.7	83	818	38.5	4.9	9.7	1.66

注)平成12年播～15年播の平均、ただし、全重および蛋白質含量は13年播～15年播の平均、灰分は12年播～14年播の平均
 精子実重、千粒重は粒厚2mm以上で水分12.5%換算
 容積重はブラウエル穀粒計による測定値
 蛋白質含量は全粒粉のBRAN+LUEBBE社製近赤外分光分析計InfraAlyzerによる測定値

表2 播種量や施肥量が出穂期、成熟期および収量・品質に及ぼす影響

播種量 kg/10a	施肥	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	全重 (kg/a)	精子実重 (kg/a)		収量比	千粒重 (g)	容積重 (g/L)	外観品質 (1-6)	蛋白質 含量 (%)	灰分 (%)
								平均	標準偏差						
6	標肥	4.16	6.5	74	7.8	430	87	40.8	6.5	89	32.8	822	3.5	8.4	1.52
10		4.15	6.5	77	7.2	524	99	45.9	6.8	100	32.9	819	3.5	8.4	1.55
14		4.14	6.5	76	6.9	565	98	44.7	5.1	97	33.5	821	3.5	8.5	1.54
6	多肥	4.16	6.5	78	8.0	491	102	48.5	9.3	106	31.4	818	3.8	8.7	1.54
10		4.15	6.5	80	7.6	578	112	53.0	5.6	115	31.8	817	3.9	8.7	1.53
14		4.15	6.5	80	7.1	631	114	53.1	8.0	116	32.3	794	3.7	8.6	1.51

注)品種名「ふくさやか」、平成13年播～15年播の平均、ただし灰分は13年播～14年播の平均、播種時期は11月上旬、播種様式は全面全層播き
 施肥は「基肥 - 1月下旬追肥 - 3月上旬追肥 - 出穂前7日追肥」で、10a当たり施肥窒素は標肥「6-2-2-2」、多肥「6-3-3-3」
 精子実重、千粒重は粒厚2mm以上で水分12.5%換算
 容積重はブラウエル穀粒計による測定値
 蛋白質含量は全粒粉のBRAN+LUEBBE社製近赤外分光分析計InfraAlyzer500による測定値

[その他]

・ 研究課題名

大課題名：消費者等の多様なニーズに応える高品質・高付加価値化技術の開発

中課題名：安全・安心・高品質な農畜産物の生産技術の開発

・ 研究担当者名

河村政彦 (H15～16)、鳥塚智 (H12～14)、中山孝彦 (H16)、吉岡ゆう (H12～16)

・ その他特記事項

なし